



「赤居文庫」

モノトーンの木壁に囲まれ、通りに面した窓際に配された木製のテーブルに一人掛けの椅子が並び、電源も用意されている。もちろんWi-Fi完備。テーブル上にはソフトカバーを外した表紙剥き出しの文庫が横一列にぎっしりと並ぶ。店内には軽妙なクラシックが流れ、時を打つ壁時計がいつの間にか時間の経過を教えてくれる。アイスウィンナ珈琲とモーニングトースト餡バターを注文。秋田を訪れた際には再訪したくなる。日本橋高島屋には「黒澤文庫」という姉妹店もある。



「佐藤養助商店秋田店」

5月に横手の秋田ふるさと村で訪れて以来、2回目。前回と同じ二味うどんを食す。お供は辛口（高清水）熱燗で。昼前だったにもかかわらず、出張族が連なり、店前に列が続く。やはり暑いには、ぐっと冷えた稲庭うどんが口に合う。